

よしまい

2024年 春号



変身したらお別れ、ズグロカモメ

目次

公園の風景

- ・へんし〜ん!1
- ・枯れヨシ原がまっ黒に1
- ・猫で、犬で、熊!?!1
- ・キュウリグサ1

展望棟から ①1

みんなのひろば

- 山の思い出2

活動紹介

- ・こんなところにカブトガニ!3
- ・ボランティア募集中♪3
- ・一年をふり返って3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景



ズグロカモメ夏羽

= へんし〜ん! =

春が近づくと、雌にアピールするため体や羽の色を少しずつ変えていく鳥がいます。園内ではヨシ原などで時々見かけるアオサギは、クチバシと脚が赤くなり胸や背中中の羽が伸びてきます。干潟の杭の上でよく羽を広げ乾かしている真っ黒なカワウは、頭は白く脚の付け根あたりには丸い白斑が現れて、別の鳥と見まがう姿となります。



ズグロカモメ冬羽

秋に干潟のヤマトオサガニを目当てに渡って来るズグロカモメも、白かった頭を真っ黒にして、繁殖地の朝鮮半島に帰っていきますが、同じ鳥とは思えない変身ぶりです。そんな鳥たちの変身は繁殖期が近づいているサイン。渡り鳥のズグロカモメは、今年の秋にはまた幼鳥と共に元の白い姿で飛んできてくれることでしょう。

= 枯れヨシ原がまっ黒に =

3月2日、恒例のヨシ焼が行われました。順調に燃えて枯れヨシ原の東側半分が見事に黒焦げになりました。5月にはまた青々としたヨシ原に戻り、生き物たちの営みが始まります。



撮影 葦の会会員 太田

= 猫で、犬で、熊!? =

公園を散歩していると、たま〜にイタチに遭遇することがあります。大抵はさっと出てきてさっと隠れてしまいます。イタチとは「ネコ目イヌ亜目クマ下目イタチ科イタチ属」に含まれる哺乳類の総称で、オコジョ、イイズナ、ミンク、ニホンイタチ、フェレットなどがイタチ属に分類されるそうです。公園にいるのはニホンイタチで、主に動物食でネズミや鳥、両生類、魚、カニ、ザリガニのほか、ヤマブドウ、マタタビの実などの植物も食べます。今回顔を見せてくれたイタチは、一瞬立ち止まってカメラ目線をしてくれたのですが、シャッターは間に合いませんでした! (>_<)



= キュウリグサ =

春浅い3月から5月ころまで花を咲かせるムラサキ科キュウリグサ属の雑草です。道端や畑、庭の片隅などあらゆる所で見ることができ、園内にもあちこちに生えています。原産地はアジア、日本では全土に分布しています。



巻のかかった茎の先に沢山の蕾を付け、淡い青紫色の花を下から順に開花させます。葉は丸みを帯び、葉や茎を揉むとキュウリの匂いがすることが名前の由来です。園芸種のワスレナグサとは近縁で花の付き方や姿は似ていますが、大きさ1cm程のワスレナグサに比べキュウリグサは2mm程とはるかに小さいです。

展望棟から ①

公園の駐車場から入って左に進み、突き当りを右に曲がって淡水池と樹林帯の間の道をまっすぐ歩いて行くと観察展望棟に着きます。ここは東西南北ぐると見渡せ、水鳥をはじめ様々な野鳥が観察できる絶好のバードウォッチングスポットですが、取材班は今回、展望棟から見える山に着目してみました。南西方向すぐ手前に見えているのは、地元の人に親しまれている日の山です。



観察展望棟

屋根に 360° 対応のカメラが置かれている



南西方向 正面に見えるのが日の山
象が伏せているように見える

みんなのひろば😊

山の思い出



奥穂高岳

25年前、友人に誘われて防府右田ヶ岳（426m）に登りました。これが私の初登山です。10月の透き通った青い空が広がり、山頂に立った時の喜びは今でもはっきり覚えています。それ以来、山友と里山歩き。少し体力がたくとツアーにも参加するようになりました。

北アルプス奥穂高岳（3190m）に登ったのは右田ヶ岳から3年後のことです。宿泊地の湊沢からの紅葉は今までに目にしたことのない美しさでした。翌日山頂に立ちました。雄大な絶景がどこまでも広がっていました。遠くに小さく富士山が見え、頑張っ歩いて私たちへのご褒美と思いました。

ポスターを見て憧れた、北海道利尻山（北峰 1719m 本峰へは通行禁止）は奥穂高岳から4年後に登りました。7合目で大雨になり、一旦下山。2日後再挑戦して山頂に立ち、感動で胸がいっぱいになりました。

これまで山友達とたくさんの山旅をしてきました。日々の活力の素でした。この頃は、時々里山を歩いています。木、草花、鳥などで季節の変化を見つけて楽しんでいます。

(R.M)



皆さまのご投稿をお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com までお送りください。

活動紹介

= こんなところにカブトガニ！ =

2月4日、山口市の泥石川河口で今年度二度目の山口湾清掃活動が行われました。今回はマイクロプラスチックの元になるペットボトルやビニール袋などを回収するのが目的でした。皆で手分けして清掃を始めると、廃棄なのか漂着なのか多様なものが落ちていてびっくりです。もう既に直径が5ミリ以下になっているものもたくさんあり、「ああ、これを海の生き物たちがエサと間違えて食べてしまうんだ。」と納得させられました。



この海岸はカブトガニの産卵場所にもなっているようで、あちこちで死んだカブトガニを見つけました。水槽ではなく海で見るとは初めてでした。せっかくの恵まれた環境を、生き物のためにもゴミでいっぱいにならないように一人一人が気を付けていかなければなりませんね。

= ボランティア募集中♪ =

年2回、3月と9月に行われる説明会、今年の3月は20日（水・祝）の10時～12時で実施されます。公園は2001年の開園以来23年の年月を、四季折々の鳥、植物、小動物、昆虫など通して自然のままの季節を感じ、憩える場として存続し、来園の皆さんをお迎えしています。

そんな公園でのボランティア活動に興味を持たれる方へのお誘いです。説明会と本紙発行とが重なりますが、仮登録の対応もありますので是非ご連絡下さい。

<俳句教室 最多選句>

・探鳥の
一歩緩むや寒椿

カツ子

1月

・ほらそこに指差す
先の初音かな

カツ子

2月

= 一年をふり返って =

ようやくコロナから解放された令和5年度、葦の会主催の恒例行事「夏休み自然観察会」は山口県環境政策課の特別企画のもと、国立環境研究所とのコラボ企画として、昨今気がかりな気候変動のワークショップとして行われました。又10月のふれあいまつりでは、会員の落合孝雄さん作詞作曲によるクロツラヘラサギの歌を披露し、更に機関紙「よしきり」にて6回シリーズで特集した『ラムサール登録への道』を、クロツラの歌詞と共に小冊子にまとめました。会員が一丸となり意義ある活動に繋がられた一年だったと振り返る年度末です。

目前となった令和6年の新年度は、公園の悲願である、山口湾をラムサール条約登録湿地とすべく、我々葦の会も公園の一助となるべく活動してまいります。（代表 村田）

<編集後記>

3月になり、園内を散策していると、ウグイスやホオジロの囀りがあちこちから聞こえてきます。心ウキウキの春がやって来ましたね。でも今年は花粉が大量に飛んでいるようで、花粉症の方には辛い季節ですね。私もいつか症状が出そうでドキドキしてます。

(RunRun)